

『おくすり回収袋』を用いた内服状況の確認と

服薬アドヒアランス向上を目指した取り組み

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○中島さゆり 山下万紀子 小川瑛里 川口利江 川口 唯 川内リカ 畑本
明子 吉野秀章 池田康平 小嶺真耶 矢野未来 江藤りか 橋口純一郎
原田孝司 船越 哲

【背景・目的】

患者の残薬を確認することで薬の飲み忘れや自己調節などの内服状況が把握できると考えられる。そこで、残薬調査のため『おくすり回収袋』の配布、回収を行った結果を報告する。

【方法】

外来透析患者に 2 か月毎に『おくすり回収袋』をお渡しし、自宅にある残薬を持参していただいた。残薬の内容を確認し、残薬が多い患者に対しては聞き取りや処方変更の提案を行った。また、薬を自己管理している患者へ透析関連の各種薬剤の内服状況の聞き取り調査を行った。

【結果】

平成 26 年 12 月より配布を開始し、平成 27 年 5 月までの半年間で『おくすり回収袋』を渡した患者 317 名中 186 名より残薬の返却があった(返却率 58.7%)。残薬の総額は 2088347 円であり、金額ベースでリン吸着薬やシナカルセト塩酸塩、降圧薬、カリウム吸着薬の残薬が多かった。特に返却の多かったリン吸着薬について薬剤毎に返却率の評価を行ったが、薬剤による差異はあまりみられず、処方されたリン吸着薬の 5%ほどが残薬として返却されていることが判明した。昼食後の残薬が多い症例で昼の内服薬をなくしたり、不要な薬剤を中止したりするなどの処方変更を行った。また、聞き取り調査ではリン吸着薬や下剤、カリウム吸着薬の内服率が低い結果となった。

【考察】

『おくすり回収袋』を用いることで約 60%の患者の残薬が確認できた。これにより患者の服薬アドヒアランスを把握し、患者に合わせた処方提案が可能となった。今後継続していくことで患者のアドヒアランスの向上と医療費削減につながると考えられる。特に返却の多かったリン吸着薬については、患者の服用しやすい剤型の選択なども考慮して処方変更を行っていくことが必要と思われる。

また、食事をとらないために内服していない場合などもあり、患者の食生活に配慮した処方の変更が求められる。

その後の直近のデータと更に踏み込んだ調査についても報告する。